

令和 6 年度 古里中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

青雲の志 夢と希望を持ち、その実現に向けて自己を高めようとする強い意志
 友垣の和 正義感・連帯感を大切にし、友達のために尽くそうとする心と行為
 冴えた知性 学んだことを最大限に活かし、よりよい社会の創造に貢献する能力

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・将来の夢や希望を抱き、その実現に向け、自ら学ぼうとする生徒
- ・正義感・連帯感を大切にし、他人のために尽くそうとする心豊かな生徒
- ・健康な心と身体をもち、学んだことを最大限に活かし、よりよい社会の創造に貢献しようとする生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

信頼と絆（子ども・保護者・地域・仲間との信頼関係と絆を深めることによって、教育力の推進とする）

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

生徒・保護者・地域から信頼される学校の創造に努める。

「古里中学校地域学校園教育ビジョン」

確かな学力の向上 コミュニケーション能力の育成

4 教育課程編成の方針

学校教育目標の具現化を目指し、経営方針に従い、本年度の努力点が達成できるよう、弾力的に編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○確かな学力の向上を目指した教員の授業力の向上（校内授業研究会の充実）○コミュニケーション能力の育成・道徳科を核とした系統的な教育や認め励ます教育（心の教育の充実）・将来の目標を持ちその実現に向けて努力しようとする生徒の育成（キャリア教育の充実）・相手を理解し、それを態度や行動で表そうとする生徒の育成（人権教育の推進）・情報端末の効果的な活用（主体的な学びに向けて）・働き方改革の推進（学校業務のスリム化、部活動の適切な運営等）

(2) 学習指導

・『主体的、対話的で深い学び』の視点からの授業改善○確かな学力の育成・向上（わかる授業の実践を通して）○「学びあい」を通して学習意欲の向上、基礎・基本の定着及び思考・判断・表現力等の育成
 ・言語活動の充実（自分の考えを書いて発表する活動の重視）・家庭学習を中心とした自主学習の内容の充実（学習計画表を生かして）・授業におけるICTの効果的な活用

(3) 児童生徒指導

○コミュニケーション能力の育成・教育相談の充実（不登校対策）・いじめ防止対策の強化・よりよい人間関係を築くために人の気持ちを考えられる生徒の育成：人権教育の推進

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

○健康面・体力面に関心を持ち、積極的に健康・体力の向上に取り組む生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	・デジタル機器を効果的に活用して課題を追究する場を多く設定するなど、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より保護者+10.7上回った。しかし、昨年度より生徒-3.2、教職員-2.8、市の平均より生徒-1.3下回った。数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ・授業において意図的なグループワークを取り入れ、協働的な学びの場を確保するとともに、デジタル機器を効果的に活用して課題を追究する場を多く設定する。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心を持っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	・道徳の授業だけでなく、学校生活を通して、教員や他の生徒との対話や討論など行うとともに、生徒に考えさせる機会を設ける。 ・今年度に引き続き、日常生活での言葉掛けを大切にし、様々な活動を通しての成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てよう努める。	B	【達成状況】 ・数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・学校生活を通して、教員や他の生徒とのコミュニケーションを多くとり、互いの気持ちを考えさせる機会を設ける。 ・今年度に引き続き、日常生活での言葉掛けを大切にし、様々な活動を通しての成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てよう努める。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	・学習や部活動、学校行事において目標を明確にし、生徒各自の目標を持たせて取り組ませる。 ・振り返りの機会を設定し、次の場面で生かせるように指導する。 ・教職員が、生徒の結果よりも過程を重視し、成長した部分を認める指導に重点を置く。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、市の平均より保護者-1.5下回ったが、数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ・各学校行事、毎日の学習、部活動など学校生活での目標を明確に持たせ、粘り強く取り組ませる。 ・各行事での振り返りの時間を設け、次に生かせるよう指導する。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	・保健だより、食育だより、集会等で啓発活動を継続する。 ・普段の学校生活での注意喚起や各種委員会活動、交通安全教室、避難訓練を通して、健康や安全への意識を高める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、市の平均より教職員+9.6上回った。しかし、昨年度より保護者-0.2、市の平均より保護者-0.3下回った。数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ・保健だより、食育だよりなどを配付し、家庭内での協力を仰ぎ、健康への意識を高める。 ・普段の学校生活での注意喚起や各種委員会活動、交通安全教室、避難訓練を通して、安全に生活しようとする態度を養う。

<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、文化祭等の学校行事や部活動等を通して、連帯感を大切にし、自分の良さを発揮しながら、集団のために尽くしたり協力したりする意欲を高めるとともに、所属感や目標を達成した時の成就感を味合わせる。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、市の平均より教職員+6.5上回った。しかし、生徒が昨年度より-0.1、市平均より-1.6下回った。しかし、数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ・生徒会活動や学校行事・部活動における様々な体験や活動を通して、自分や他人の良さを発見し、お互いに補い合うことで協働していく大切さを実感させる。 ・教職員が生徒の良さを発見し、ほめていくことで、活気のある生徒活動の一助となるように努める。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業においてALTと協働して言語活動を充実させるとともに、生徒間のコミュニケーションの機会を多く取り入れる 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より生徒-1.5、市平均より教職員-2.2下回った。生徒74.4%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 【次年度の方針】 ・英語の授業において、基本的学習事項の定着をはかり、コミュニケーションのための素地を作る。 ・生徒間でコミュニケーション活動の機会を多く取り入れる</p>
	<p>A7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の中で、1年生は「古里地域をまとめる学習」、2年生は社会体験学習の「職業関係者からのインタビュー」を通して、宇都宮の地域に根付く文化や情報にふれる機会を増やす。 ・宇都宮学の内容を精選し、テーマを決めて個人の考えが深められるようなワークシートや学年課題を考えていく。 ・LRTに乗るなど宇都宮の良さを実体験できる活動を取り入れる。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より生徒+7.4上回った。しかし、生徒が昨年度より-4.3、市平均より-10.8、保護者が市平均より-3.9下回った。生徒75.0%、保護者70.3%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 【次年度の方針】 ・宇都宮学において、より身近な地域に興味を持てるような内容を取り入れる。地域の歴史的な建造物を実際に見に行く活動を取り入れることも検討する。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観をはじめ、デジタル機器を活用した授業を展開するための研修を行う。 ・司書教諭と連携を図り、図書館の図書や資料を授業で積極的に活用を促す。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が昨年度より-3.4、市平均より-0.1下回っている。生徒73.8%、保護者78.2%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 【次年度の方針】 ・相互授業参観等、デジタル機器を活用した授業を展開するための研修を、研修計画に位置付ける。 ・図書館司書と連携して、図書等を学習に活用する機会を設ける。</p>

<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の環境委員の活動を例にして、次年度も古里中学校の生徒として SDGs にどのように取り組むかを、生徒会・各専門委員会が協力し実施する。 ・各授業等で SDGs に触れ、教科間で行った内容などの情報の共有化を図る。 ・各教室での燃えるゴミとプラゴミの分別を呼びかけ、日々の生活の中での行動を意識させる。 ・ペットボトル、プルタブの回収、古着回収など外部活動団体との連携を図る。 ・節電、節水など身近な環境へ配慮する活動を各委員会を中心に実施する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、昨年度より教職員+6.4上回った。しかし、生徒が昨年度より-9.1、市平均より-4.9、教職員が市平均より-2.2下回った。生徒71.8%、教職員71.9%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、各授業等の中でSDGsに触れる機会を設けるようにして、特別なことではなく、日常の中で意識すべきことであることを生徒に浸透させる。 ・牛乳パックのリサイクルがどれほどの効果があるのかなど、給食委員や環境委員で放送を行い、生徒にリサイクルをする意味を理解させる。 <p>A</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、特別支援教育コーディネーターや教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有（校内支援委員会、教育相談部会）を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、特別な支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値指標を達成することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、特別支援教育コーディネーターや教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有（校内支援委員会、教育相談部会）を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、特別な支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。 <p>B</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の観察や教育相談、アンケート調査などを通じて、いじめの早期発見に取り組み、適切かつ迅速に対応する。 ・学校生活全体を通して、思いやりや助け合いの心を育てるとともに規範意識を高め、望ましい人間関係を築く力を育成する。 ○生徒会と協力して、いじめゼロ運動を展開し、自分の大切さとともに他の人の大切さを実感させる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、昨年度より地域+5.5上回った。しかし、生徒が昨年度より-0.8、保護者が市平均より-5.2下回った。保護者72.8%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業等を活用し、一人一人の人権を尊重する指導を行う。 ・学校生活全体を通して、思いやりや助け合いの心を育てるとともに規範意識を高め、望ましい人間関係を築く力を育成する。 ・いじめゼロ集会を実施することにより、いじめを許さない環境の整備をする。 ○生徒会と協力して、いじめゼロ運動を展開し、自分の大切さとともに他の人の大切さを実感させる。 <p>A</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、定期（随時）教育相談、Q-U結果を活用し、不適応傾向にある生徒の早期発見を図り、学校体制で早期対応する。加えて、教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、昨年度より保護者-1.3下回った。数値指標は達成した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生徒との関わりや定期（随時）教育相談により、不適応傾向にある生徒の早期発見を図り、学校体制で早期対応する。加えて、教育相談担当を中心に、配慮生徒の情報共有を図り、学校資源を活用しながら、適切な支援に努める。また、SC、MS、関係機関との連携を密にし、支援を必要とする生徒に対して組織で取り組む。 <p>B</p>

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などの評価の反省を生かし、内容を見直し、改善に努める。 ・異年齢集団活動を通して、様々な人との関りをもたせ、心の通じ合いや目標達成の喜びを体験させる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値指標を達成することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事などの評価を生かし、内容を見直す。 ・異年齢集団活動を通して、心の通じ合いや目標達成の喜びを体験させる。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	<p>【数値指標】</p> <p>肯定的回答 80%以上</p>		B
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市学校教育スタンダードを意識し、課題の提示、発問、板書等、指導方法について工夫する。 ・相互授業参観の様子や学習の内容をHPに掲載するなど学力向上に向けた取組を保護者に発信し理解してもらう。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、生徒が昨年度より-1.8、保護者が昨年度より-1.1、市平均より-3.8下回った。保護者74.6%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市学校教育スタンダードを意識し、課題の提示、発問、板書等、指導方法について工夫する。 ・相互授業参観の取り組みを通して、確かな学力の向上につながる授業の改善を行う。 ・教科等で生徒の興味・関心が高い学習から、社会につながっていることに気づかせ、学ぶ意義を理解させるよう努める。
4-(2) チーム力の向上	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い雰囲気を醸成し、教職員間の理解と連携を深め、同僚性を高めるとともに、職員個々の良さを生かせる体制づくりに努める。 ・学校行事や職員研修などにより、全職員が専門性を生かして業務に取り組む体制を強化していく。 ・教科部会や教科主任会、校務分掌部会等の機能を生かし、教職員の考えを業務に生かす。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、昨年度より教職員-3.1だが、数値指標を達成することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、風通しの良い雰囲気を大切にしながら、教職員間の理解と連携を深め、同僚性を高めるとともに、職員個々の良さを生かせる体制づくりに努める。 ・教科部会や教科主任会、校務分掌部会等の機能を生かし、教職員の考えを学校運営に反映させ、協働参画意識を高めていく。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の業務を見直すとともに効率化を図り、生徒と向き合う時間の確保に努める。 ・部活動の在り方の見直しを図る。 ・タブレットの有効活用を共有する。 ・係内で分担、連携し、業務の効率化を図る。 ・部活動指導員制度を適正に運用する（単独での指導、教員不在での引率可能等）ことで、教員の負担軽減を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値指標を達成することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌業務を係内で分担したり、タブレットの有効活用を共有したりするなど、教職員の業務の効率化に努め、生徒と向き合う時間の確保に努める。 ・部活動の在り方の見直しを検討していくとともに、部活動指導員制度を活用しながら、教員の負担軽減に努める。

<p>5- (1) 全 市 的 な 学 校 運 営 ・ 教 育 活 動 の 充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動などの生徒会活動による学校園共通の取組を実践する。 ・小中共通した取組に関して、生徒の意識を高める。(学習関係、お弁当の日、冒険活動等) ・PTA や地域協議会を通した、地域学校園共通の取組を行う。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より4つ、市平均より3つ下回った。また、生徒79.9%で、数値指標を下回ったので、次年度に向けて改善が必要である。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動などの生徒会活動による学校園共通の取組を実践する。 ・小中共通した取組に関して、生徒の意識を高める。(学習・生活での約束等、お弁当の日、冒険活動等) ・これまでの部会に加えて教科部会を開催して各教科における課題を把握し、学力向上に向けて実践できることを検討していく。</p>
<p>5- (2) 主 体 性 と 独 自 性 を 生 か し た 学 校 経 営 の 推 進</p> <p>5- (3) 地 域 と 連 携 ・ 協 働 し た 学 校 づ くり の 推 進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を強化する。 ・「社会体験学習」や、「職業人に学ぶ」、「先輩に学ぶ」等、家庭・地域・企業等と連携を図り、より充実した教育活動を行う。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より生徒-2.5、教職員-9.4、市平均より教職員-6.0だが、数値指標を上回った。次年度は、教職員に活動を周知していきたい。 【次年度の方針】 ・保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を強化する。 ・「社会体験学習」や、「職業人に学ぶ」等、家庭・地域・企業等と連携を図り、より充実した教育活動を行う。</p>
<p>6- (1) 安 全 で 快 適 な 学 校 施 設 整 備 の 推 進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から危険個所がないか意識し、安全点検の実施により、破損個所、危険個所を共有するとともに、学校業務担当、機動班、事務担当、市教委等との連携を図り、速やかな改善、修繕に努める。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年度より教職員-3.1、保護者-0.8下回った。数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ・安全点検の実施により、破損個所、危険個所を共有するとともに、関係機関・担当者との連携を図り、速やかな改善、修繕に努める。 ・定期的な登下校指導を実施し、生徒が安心して登下校できるように努める。</p>
<p>6- (2) 学 校 の デ ジ タ ル 化 推 進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育を活用した授業の展開例を教員間で共有し、教職員の活用能力の向上に努める。 ・各種たよりやHPなどで、デジタル機器を使った授業を紹介したり、図書を更新、充実について周知したりするなど、学校の取組についての情報発信に努める。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・リアルとデジタルのベストバランスを念頭に置きながら、一人一台端末の効果的な活用について研鑽を積む。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園共通の「あいさつ運動」や日々の生活の中で、望ましいあいさつ習慣を身に付けさせる。 ・教職員から積極的なあいさつを行い、活気のある学級づくりの一助となるように努める。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、市平均より教職員+7.3、地域+5.0上回った。しかし、昨年度より教職員-6.3下回った。数値指標は達成した。 【次年度の方針】 ○今年度に引き続き、地域学校園共通の「あいさつ運動」や日々の生活の中で、望ましいあいさつ習慣を身に付けさせる。 ・教職員から積極的なあいさつを行い、活気のある学級づくりの一助となるように努める。</p>

	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、教職員からの指導だけではなく、生徒会と協力して、きまりやマナーの必要性を考えさせる指導を行う。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年より地域+5.5、市平均より教職員+9.0 上回った。しかし、昨年度より教職員-3.1 下回った。数値指標は達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員からの指導だけではなく、生徒自身が地域住民の一員として公共でのきまりやマナーについて考える機会を設ける。</p>
	<p>B3 コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えや感じたことを自分のことばで伝えたり、相手の立場を考えながら聴いたりする力を養う。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答が昨年度より生徒-5.1 下回った。数値指標は達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・話し合い活動を積極的に取り入れる。 ・自分の考えや感じたことを自分のことばで伝えたり、相手の立場を考えながら聴いたりする力を養う。 ・互いの意見を尊重しあえる雰囲気作りを努める。</p>
	<p>B4 自分の将来について考え、社会の出来事に興味・関心をもって生活することができる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通したキャリア教育指導計画に基づき、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を関連付けて指導する。 ・デジタル教材を有効に活用し、情報収集する活動を行う。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年より生徒-5.9、教職員-0.9 下回った。教職員 75.0%、保護者 67.3%と数値指標を下回ったので、質問文を見直すなど、次年度に向けて改善が必要である。</p> <p>【次年度の方針】 ・学級活動や総合的な学習の時間で行ったキャリア教育や、社会体験学習等の成果を、保護者や地域に、発表会などで発信していく。</p>
	<p>B5 豊かな表現力を支える言語活動を向上させるため、読書の習慣化に努める。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書の時間の時間確保を継続する。 ・利用しやすい図書室の環境整備と利用促進を図るなど、読書環境づくりを進める。 ・「図書館だより」や HP を通した多様な図書情報の提供や生徒会図書委員会の活動を通して、読書に対する意欲を高めさせる。 ・読み聞かせやブックトーク、ビブリオバトルなどの活動を取り入れ、読書への関心を持たせる。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答は、昨年より生徒-12.9、教職員-2.2 下回った。生徒 59.9%、保護者 45.8%と数値指標を下回ったので、質問文を見直すなど、次年度に向けて改善が必要である。</p> <p>【次年度の方針】 ・朝の読書の時間の時間確保を継続する。 ・利用しやすい図書室の環境整備と利用促進を図るなど、読書環境づくりを進める。 ・「図書館だより」や HP を通した多様な図書情報の提供や生徒会図書委員会の活動を通して、読書に対する意欲を高めさせる。 ・家庭での読書活動を推進するために、「マイ・スタディ」に読書の記録をする項目を加える。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・【数値指標】について、評価項目25、対象分け73の対象中、指標を上回って達成しているものは59で、80.8%の達成率であり、概ね満足の状態と言える。

・【数値指標】に達成しなかったものは、A6（生徒）「英語を使ったコミュニケーション」、A7（教職員・保護者）「宇都宮市の良さ」、A8（生徒・保護者）「デジタル機器や図書の活用」、A9（生徒・教職員）「持続可能な社会」、A11（保護者）「いじめ」、A14（保護者）「きめ細かい指導」、A17（生徒）「小中一貫」、B4（教職員・保護者）「将来・社会の出来事」、B5（生徒・保護者）「読書」の14であった。ただし、B4（保護者）とB5以外は、すべて7割以上が肯定的評価であった。このことから、B4、B5以外は、概ね満足な状態と考えられる。ただし、より向上するよう目指していく。

- ・肯定的評価が80%を超えている割合は、生徒が20項目中15項目（75.0%）、教職員が25項目中22項目（88.0%）、保護者が18項目中12項目（66.7%）、地域が10項目中10項目（100.0%）であった。教職員、地域は、肯定的評価が多い。また、生徒がB5以外すべて7割以上、保護者がB4の67.3%とB5以外が7割以上の肯定的評価であった。このことから、B5以外は、比較的概ね満足な状態と考えられる。
 - ・前年度との比較においては、10%以上下がった項目がB5（生徒）「読書」－12.9であった。5.1%以上10.0%未満下がった項目は、A9（生徒）A17、A18（教職員）B1（教職員）B3（生徒）、B4（生徒）であるが、いずれも7割以上の肯定的評価であった。また、9項目が5%以上上昇し、特に、A1（保護者）については、10.7%上昇した。他は、概ね大きな変動はなかった。
 - ・宇都宮市との比較においては、10%以上差がある項目がA7（教職員）「宇都宮の良さ」－10.8であった。次年度、総合的な学習の時間を見直していく。5.1%以上10.0%未満差がある項目は、A11（保護者）、A18（教職員）であるが、いずれも7割以上の肯定的評価であった。また、7項目が5%以上上昇した。他は、概ね大きな変動はなかった。
 - ・A9「持続可能な社会」については、肯定的回答が市平均を下回っている。身の回りの生活における工夫や課題について生徒が気づいていないことが考えられる。各教科の授業を通して現代社会の課題について理解させるとともに、生徒会活動等を通じて、日常生活の中から持続可能な社会の構築に向けて、すでに実践していること、今後さらに貢献できることに気づかせ、意識を高めていく必要がある。
- A12「不登校を生まない学校経営」については、「小中一貫教育・地域学校園」の組織を活用し、教育相談部会、メンタルサポーター、スクールカウンセラー、市教育センター等との連携を図りながら、きめ細かな支援に努めてきたことが反映されたものと考えられる。
- ・A16「勤務時間を意識して、業務の効率化」については、教職員の肯定的回答が市平均を上回ったが、数値目標に達しなかった。ICT機器の有効活用などを一層進めるなどの業務の効率化に努め、生徒と向き合う時間の確保に努めていく。
- A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」やA18「学校と家庭・地域・企業の連携」の肯定的評価の伸び悩みについては、取組についての広報が不足だったためと考えられる。次年度は、本校ホームページ等を用いた広報など、情報を積極的に発信していく。
- B1「時と場に応じたあいさつ」については、あいさつの大切さについて考えさせるとともに、教職員からも積極的にあいさつすることを心掛けてきたことや、生徒によるあいさつ運動などの活動が実を結んでいるものと考えられる。
- ・B5「読書の習慣化」については、朝の読書の様子や図書館の貸出数との比較から実績と異なる様子が見られるので、質問内容を再確認していく。

7 学校関係者評価

- ・アンケート結果から、教職員と生徒、学校と保護者の関係は、よい方ではないかと考えられる。
- ・いじめ、決まりやマナー、あいさつ、交通安全については、重要なことなので、学校・家庭・地域全体で、さらに向上するよう協力していきたい。
- ・宇都宮の良さについて、河内地区は、他地域と比較し、インフラ・アクセス・情報取得など優れた地域である。未来の地区、宇都宮市の担い手を育てるため、よく取り組んでほしい。
- ・地域でのイベントなど、古里中生徒がボランティアとして一生懸命活動している様子が多くみられる。とても感銘を受けている。今後も積極的に参加してほしい。
- ・行事が盛んで、生徒と教職員との団結力を感じている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・アンケート、学校関係者評価では、貴重なご意見をいただいた。これらのご意見をもとに、令和7年度の学校経営については、細かな部分でスクラップアンドビルドを実践し、学校教育目標の実現に向けて取り組んでいきたい。
- 一人一台端末等のICT機器を活用した指導方法の工夫・改善に努め、主体的・対話的な学び合いを通じた確かな学力の育成・向上を図るとともに、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- きまりやマナーを守った生活や時と場に応じたあいさつについての肯定的割合が高いため、今後も自ら正しい判断ができるよう規範意識を高めていくとともに、今後も、自ら明るく元気のいいあいさつが交わし合える学校づくりを目指していく。
- 素直な生徒が多く、落ち着いた学校生活が送れていることから、今後も互いに相手を理解しそれを態度や行動で表そうとする生徒を育成していく。

- ・教職員の働き方改革については、業務の効率化や意識改革、部活動指導員の導入など、その改善に取り組んでいるところであるが、さらに推進していく。
- ・今年度も「学校だより」を定期的に発行し自治会を通して地域に配付したり、ホームページを通して本校の教育活動における取組を伝えたりすることにより、保護者・地域住民の理解と協力を得ることができた。今後も引き続き、保護者・地域への広報活動を行い、安心・安全で信頼させる学校づくりに努めていく。
- ・今年度、最も肯定的割合の数値が低かった項目が、B5「意欲的に読書」の項目であったことから、今後は、家庭での読書活動を推進するために、「マイ・スタディ」（家庭学習の計画と記録）に読書の記録をする項目を加えるとともに、「図書館だより」や学校ホームページによる多様な図書情報の提供や生徒会図書委員会の活動を通して、生徒の読書に対する意欲を高めさせていく。